

経済倶楽部便り

◆東京◆ 講演会は夏季休暇を経て9月から再開されました。毎年9月というところ、必ず首都直下型など地震関連の講演を行ってきましたが、今年はずがにコロナ関連にしました。講師に

は『感染症と文明』や『新型インフルエンザ』の著書がある長崎大学熱帯医学研究所の山本太郎氏にお願いしました。内容的には日々メディアで接しているコロナウイルスとの闘い方といった視点ではなく、人類はウイルスや常在菌と共存することで生き延びてきたことを歴史的、疫学的に解説され、新鮮な印象を受けました。

今後の定例講演会は10月が千葉大学予防医学

研究センターの近藤克則氏、毎日新聞社専門編集委員の与良正男氏、立正大学学長の吉川洋氏、アフラック会長のチャールズ・レイク氏、米国弁護士湯浅卓氏、11月が大正大学地域創生学部教授の小峰隆夫氏、京都大学名誉教授の山口栄一氏、東京財団主席研究員の柯隆氏、時事通信社解説委員長の山田恵資氏です。

◆中部◆ 9月最初の講師は寺島実郎氏でした。足踏みが続くGDPや時価総額の低迷など、埋没する日本とそこからいかに脱却するかについてデータを交えながらお話ししました。

10月の講演会は軍事アナリストの小川和久氏、双日総研の吉崎達彦氏、11月は第一生命経済研究所の永濱利廣氏、「インサイドライン」編集長の歳川隆雄氏です。

(日暮良一)